

農地の整備について



下江 一将 議員
(21政会・加西ともて育つ会)



問 市の北部は面積が狭い農地が点在しており、地域ごとに小規模な区画整備を進める必要があるのではないかと。

答 農地の再整備を検討することは、地域の担い手や今後の農業経営を考える絶好の機会であることから、今後法定化される人・農地プランの策定に基づいて中間管理機構等を活用し、担い手への利用権設定を一体的に進めて生産体制を再構築していく必要があると考えます。地域の皆様で農地を守っていく気構えで再整備を検討されている地区の要望に応え

るよう努めます。

問 営農組合の方から「補助がなくなれば水稻も続けられない」と伺った。突破口の1つとして、集約化を図る小規模区画整備に対する補助は考えられるのか。

答 農地の集積などの再整備、パイプラインについても国の補助制度はありますが、その採択基準を満たすには多くのハードルがあります。そのため、加西市の地域性を考慮して市として補助ができないか検討していきます。

問 区画整備から40年余りが経過し、老朽化した水路の改修が必要と考える。水路の現状と改修計画及び補助事業について伺う。

答 加西市を含め北播磨地区の用水のパイプライン整備率

は約3割にとどまっています。県内でも整備率が悪いので、今後水管理の省力化、高度化のため、県と用水のパイプライン化事業の推進協議を進めます。

県との協議に当たり、集落営農協議会に市の担当者も同席し、農業での困りごとやパイプライン化の要望の状況、担い手の将来展望等、各営農組織から聞き取り調査を行い、今後の支援の方向性を考えていくことを決定しています。この機会をチャンスと捉え、県のモデル地区として県とともに事業を進めたいと考えます。

要望 水路の改修や区画整備、スマート化なども小規模な地区も含めて進めなければ、加西市の農業は衰退していくと大変危惧する。地域と協議しながら早急かつ着実に進めていただきたい。

加西インター産業団地について



高見 博道 議員
(令和新風加西)



問 6月議会では、2工区の進入路は磯辺池の北で県道多可北条線と接続の予定との答弁だったが、少し問題があり進入路の決定ができないと聞いている。今現在の状況は。

答 2工区の進入路について、6月議会において進入ルートは決定している旨答弁しましたが、幾つか考えられるルートがある中で県土木事務所と協議を重ね、磯辺池北側から既存の市道を拡幅し、県道多可北条線より進入する計画で進めていました。その

後、県土木事務所と細部について決めていく中で幾つか課題が出てきました。

具体的には、既存の多可北条線にある点滅の信号機の移設が必要な可能性があること、また開発道路が磯辺池に沿って2か所直角に曲がることになっていましたが、その箇所の制限速度の課題、またかねてから課題と認識していた通学路の問題など、多くの課題があるため、別ルートも含めて再度総合的に検討することとしました。

道路の計画が確定しないと区割等の土地利用計画が固まりませんので、地元住民の皆様の意見も伺いながら、また加東土木事務所や警察機関とも相談しながら、早急に進めたいと考えます。

問 2工区の進入路について早急に決定していただきたいが、この件が完了しないと1期工

事のめどが立ったとみなされないのか。あるいは、企業誘致の引き合いがあることから、進入路の進捗と並行して1期工事のめどが立っているとみなされるのか、再度確認したい。

答 ご指摘のとおり、2期事業については、1期事業のめどが立ってからという条件がついています。この条件は企業立地のめどが立てばということですので、今現在2期事業の事前協議にはもう既に着手しています。

要望 1-2工区を周回する市道加西インター産業団地1号線の交差点の安全対策も早急をお願いしたい。

■その他の質問項目

・マイナンバーカードについて